

「戦争法案」の衆議院採決強行に対し、満身の怒りを込めて抗議する！！

2015年7月17日 京都平和委員会

戦争法案の背景にある日米安保条約、新ガイドラインによる集団的自衛権行使の仕組みの一部となる経ヶ岬の米軍レーダー基地をなくすことは、京都を「戦場

りは今後とも大きくなって政権の存続を許さないことでしょう。わたしたちは戦争法案をはじめ戦争発動にいたる仕組みをなくし、日本が日本国憲法をまもり平和・友好な外交をおこなうことをつうじて平和を構築する道を歩みたいと願います。

憲法違反の戦争法案を衆議院本会議で採決強行で通過させた自民・公明・次世代の党に満身の怒りをこめて抗議します。与党が多数を頼みに法案を成立させるならば、日本はふたたび「戦前」となってしまう。このことに対する国民の不安や怒

現場」にさせないおおきな保障となります。「ミサイル防衛」という多くの国を巻き込んで宇宙の軍事利用におよぶ核戦争遂行のシステムは、舞鶴に配備されたイージス艦をはじめ自衛隊全体を組み込んで拡大しながら、すでにスタンバイしている状態にあるといっているでしょう。

このことに対する国民の不安や怒りは今後とも大きくなって政権の存続を許さないことでしょう。わたしたちは戦争法案をはじめ戦争発動にいたる仕組みをなくし、日本が日本国憲法をまもり平和・友好な外交をおこなうことをつうじて平和を構築する道を歩みたいと願います。

こうした危険性を多くの人に知らせ、国際的な連帯を広げることが重要な取り組みであり、原水爆禁止世界大会の成功をめざすとともに、グローバルネットワークという諸外国の有志者による京都で開催されるセミナー（7月30日、8月1日、経ヶ岬ツアーは7月31日）などに参加して、経ヶ岬の実情を世界に知らせようではありませんか。同時に、米軍レーダー基地が住民にあたえる被害や不安はとりのぞかれることなく、京丹後市による住民自治への干渉や議会での質問封殺にみられるように、反対する住民を敵視することをやめさせなくてはなりません。



今秋、滋賀県のあいば野演習場と岡山県の日本原演習場でおこなわれる日米合同演習にはアメリカ海兵隊が参加し、自衛隊員が戦場

今秋、滋賀県のあいば野演習場と岡山県の日本原演習場でおこなわれる日米合同演習にはアメリカ海兵隊が参加し、自衛隊員が戦場

で「殺し・殺される」実戦的な訓練が計画されています。このような情勢のもとで、わたしたちは「自衛隊員を戦場に送らせない」とをともめ、演習実施に反対していきます。そして10月31日と11月1日に静岡県御殿場市を中心に開催される「なくそう二日米軍事同盟・米軍基地 2015年日本平和大会」で富士山を成功させましょう。

幼い子どもにこんなことを言わせて、何が「国民の安心安全か」安倍首相に問いたい。(め)

幼い子どもにこんなことを言わせて、何が「国民の安心安全か」安倍首相に問いたい。(め)

戦争法案に反対の声をあげようと18日、京都市東山区の円山公園音楽堂で開かれた大集会(戦争立法NO! 京都アクション主催)には、会場あふれる約3000人が集いました。「戦争法は憲法違反」「アベ政治を許さない」と怒りのコールを響かせ京都市役所まで行進しました。パレードに先立つ集会で、仲尾宏さん(反戦・反貧困・反差別共同行動京都代表世話人)が、「たたいはこれから、安倍内閣を退陣に追い込もう」と主催者あいさつ。

70年前の戦争の終年は、東京はじめ大都市はことごとく空襲を受け、壊滅状態。私の住む町でもたびたび空襲警報が出た。そんな時、母が「もう防空壕に入らないでこうよ」といったことがある。今思えば、父はすでに病没しており、母はそんな心境だったのだろう。だが、11歳だった私は「いやだ。私はまだ11年しか生きていない、もっといろいろなことをしたい。」といったことを覚えていた。

平和の風

死ぬのはいや
7月4日の赤旗
しんぶんの「こと
ものひとこと」欄
に、6歳のお孫さんが、
「こわい、ほんとうに戦
争になるの? 安倍首相
は戦争やりたいって言っ
てるの」「私は、まだち
よっとしか生きていない
んだよ。死ぬのはイヤ」
と言って泣いた。という
投書が。それを読んで、
私も同じようなことを言
ったのを思い出した。